

委員会だより

<11月7日(日) 9名出席>

【1】財務報告：99年10月度決算報告

(単位：円、括弧内数字は99年度年間予算)

	99°収入累計	99°支出累計	収支差額
一般会計	6,581,434 (6,367,268)	5,887,453 (6,267,268)	693,981 (100,000)
建設会計	4,360,906 (3,245,476)	891,450 (2,873,000)	3,469,456 (372,476)
愛の献金	796,615 (861,749)	418,950 (520,000)	377,665 (341,749)
信徒預金	391,847 (841,673)	373,135 (680,000)	18,712 (161,673)

◆特記事項：◆一般会計：根本様、神父様から特別献金各¥200,000、¥170,000を頂く。上記特別献金により、10月度は単月収支は¥277,340のプラス

◆建設会計：冷蔵庫購入¥157,500、処理費¥5,250の支出あり。◆信徒会計：バザー準備金支出¥173,000。バザー決算は11月度決算に組込む。

◆バザー(仮)収支報告：収入¥574,551、支出¥170,000、その他収入(聖母の園、地区センター)¥53,000、収支合計 ¥457,551・・・昨年度より5万円程度少ない。未計上の「その他支出」は昨年並を考慮

【2】議題：

(1) 第5地区福音宣教委員会、七浦さん報告 (10月31日に湘南短期キリスト教セミナー打合せ)：

◆各教会の役割分担：中和田は受付(清尾、位田、阿部)

◆日程：11月13日(土)高祖神父(ザビエルにとっての日本宣教) 11月20日(土)St.渡辺和子(時間に愛をこめて) 11月27日(土)A.デーケン神父(生と死とユーモア)

◆デーケン神父様の後に立食パーティを予定。

◆中和田から、小野寺、清尾、位田、七浦の各氏が出席する。(宣教委員活動費より¥4,000支出)

◆今回は間に合わないが「教会のしおり」を作成(内容起案⇒七浦、絵、カット⇒石井、作成⇒小野)

(2) 第5地区ホームページ開設に関する打合せ報告(10月3日に藤沢教会にて開催；資料(小野)配布のみ)

<内容骨子>

◆主旨：カトリック教会の「オープン化」

◆決定事項：◆当面、開設済藤沢教会ホームページに「近隣教会コーナー」を設け、各教会のページを接続

◆各教会は紹介ページを纏め、藤沢教会に送る。

◆各教会のページの形式は、独自性を尊重する。

◆各教会の内容は各委員会の了承を得たものとする。

◆ホームページ掲載にかかる費用は、上記のように藤沢教会ホームページの下部につける限りは無料。

◆但しファイルの大きさが200K～300Kバイトを超える本格的なホームページを開設する場合は、各教会が独自にネットワークプロバイダと契約し開設する必要あり。この場合でも費用は月額1000円程度。

◆上記「近隣教会コーナー」への掲載は、本年度中に行う。掲載スタートは出来た教会から随時行う。

(3) 七五三のお祝い(11月14日)：該当者は9名。

(4) 「祈りのリレー」の経過報告(小野(和))：6月6日市岡助祭の司祭叙階式からスタート。6月の片瀬以降 藤沢、大船、鍛冶谷、原宿、戸塚と続き中和田は12月

(5) 石井さんの話：◆本年の初聖体のお勉強は7,8名であったが、来年度は3名の予定。そろそろ始めたい。◆2000年度の聖歌の集いは6月25日に山手教会にて開催予定。準備の為、11月22日に打合せを行う。

壮年会だより

<11月21日(日) 8名出席>

◆今回のバザーにつき、出席者から様々な意見や反省点が活発に述べられ、実りある会議となりました。その内容をまとめ壮年会意見として、次回のバザーや各種のイベントに役立てたいと思います。

◆恒例の秋のハイキングが、11月14日(日)御ミサの後、好天に恵まれ絶好のハイキング日和のなかで行なわれました。参加された方々は、ますますお元気な山崎神父様を先頭に男女11名の賑やか集団。ほどよく疲れ、ほどよく汗をかいて充分満足されたことでしょう。後日、神父様にお疲れでは?とお尋ねしたら、・・・「なんともないよ!!」とのご返事。その意気や将に壮者を凌ぐ勢いあり。いつまでもお元気でいて下さい。

「雑談コーナー」

◆教会のイベントで、以前取り組んだことがある「餅つき大会」を子供たちのために復活したらどうか?というお話がでました。当時の記憶がさだかでないので、当時色々とお世話して下さいの方に相談することにしました。

◆壮年会御長老の小谷さんに、この度内閣より、太平洋戦争に応召・従軍され戦地において大変ご苦労なされた事につき、小淵総理大臣名の感謝状と金盃が授与されました。今私達が自由と平和の中に身を置けるのも、山崎神父様や小谷さん達実際に戦火の下を潜られた皆様の犠牲の上にあるのです。心から感謝の念をこめ、お祝い申し上げます。

婦人会だより

<11月21日(日) 35名出席>

◆委員会報告

◆バザーについて

◆お天気に恵まれ、皆様のご協力を頂きまして、バザーも無事終了致しました。概ね良好との事でしたが、反省すべき意見もありましたので、次回に生かしていきたいと思ひます。

◆婦人会として例年通りバザーの収益金から次の団体に寄付をすることになりました。寄付額は一団体一万円です。・・・■かにた後援会 ■フマニタス救済事業 ■カリタスジャパン ■心のともしび

◆その他の報告とお知らせ

◆イルカグループより

“元気のでるミサ”と言うテープを求めました。新集会室の棚にありますのでご利用ください。

◆12月11日(土)10時より大掃除を行います。お手伝いをお願い致します。

◆12月12日共同告解があります。

◆今年度の婦人会費を未納の方は速やかに納入してくださいようお願い致します。

次回例会は12月19日(日)、次回当番はC地区です。

今月の予定

委員会	12月 5日
大掃除	12月 11日
赦しの秘跡	12月 12日
御降誕深夜ミサ	12月 24日
サロン	12月12、26日
レジオ	10、17日



第253回

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141

1999年 12月 12日



遠い道 ⑥

山崎 正俊



朝。元気で、眼が覚める。有難いと思う。そうして、嬉しくなる。それでも、その喜びなど、どれほどのものか。我慢しなければならぬことが、多すぎるんだな。みんなで助け合い励まし合って、何かの好いことがあることを期待して、日を過ごしているだけ。この病気には治る当てがないと云われているのだから。死を眼のまえにしながら、それなりの楽しみを感じて、互いに優しく助けあい励ましあっているだけ。——足腰が何とか、ちゃんとしている奴が、俺を背負う。腕が手の指がしっかりしている俺が、小さな桶を二つかかえる。奴は眼が見えなくても、俺は見えるからな、背中で案内する。こうして谷川へ水汲みに行ったものだ。親父の遺産を手に入れた新院長。親父は、やっと思いで、井戸を掘り当てた。これは、たいへんなことだった。川の水をよぐすと、文句を云われなくなったのだから。家も増築されたし、病状を耐え易くしてくれる薬も買ってもらえる。重症者も、入口のドアを開けると、ミサの祭壇とミサの祈りを感じとることができる。寝たきりでも祈りはできる。祈りをしない人のかわりに、祈りもできたのだ。お世話してくださるお方があるおかげで、私は嬉しい。神は私にもできることを与えてくださっている。誰にでも、できることはある。——いろいろな娯楽もおぼえられた。そうだぜ。片足がないのに、親父は野球を研究して、そのチームを作らせてくれたんだ。そして、他のいろいろな楽しみも遊びも持ち込んでくれた。——そこでは好きな人ができても、結婚は禁じられていたが、断種の手術(?)を受ければ、国営の病院に移って認められた。そちらにでも、祈りやミサの場所、その方法やチャンスも与えられた。ああ、それに、この頃になると、ひどく変形するまえに治癒することができたり、お願いするならば、追い出されないことになった。家庭を持ち、子供さえ生み育てることも認められる。

長い間、どれだけの方々のお手助けが、ささげられ続けたことだろう。ほんのわずかなお返しをするだけでだよ。——どなたでもがみな、よくしてくださったのでもないし、いまでも差別や意地悪はあるが、そのようなことは、それぞれの場所で解決しろ。みな、自分のことだけでも大変なんだからな。他の奴のことなど、一文の得にもならぬことに関わるゆとりはないし、世の中は、それほどの甘いものではないと云われるのは普通のことだと気がつかねばならない。弱い奴がひどい目にあわされるのは、当然のことさ。殆ど何んの報いも求めずに働くということなど、できない相談だ。まして、いつまでも恩きせがましくしないで、幼いとき弱いときなど、待ちかまえていたかのように、手を貸してくれるのに、それが有難いと思うのなら、誰かのために、「よきサマリア人」の役割を果たしなされ。誰もが、そのような生きかたに徹するようにするなら、それがあたりまえのことだと思ってくれるなら、どんなによいかと思えるなら、どんなに住み易いかもしれないよな。恩がえしなど、気のいい奴まかせにすればよいのだしな。どこかには、そのようなおひとがおられる。自分がそうなれるなら、なおよいのだから、こいつは掘り出しもの。——そうだよ。女なんかは、台所にでもすっ込んでいりとか、あまりはつきりと云い過ぎたお蔭で、中国視察になど追っばらわれるこの親父・神父なんか、たつての早死に。重症者の病室の二階の自室で、困っちゃうんだよ。

<1999. 7. 17>



逝ける友よ!! いま天空をめざし 翔けのぼれ

竹内 広治

その友の訃報を友人から電話で聞いたのは一月半ば、寒さが一段と厳しい凍りつくような朝だった。

ふとした風邪が元で肺炎になり、色々手を尽くしたけれど衰弱が激しく、あっけなく逝ってしまったとのことである。ある事情があって、その友とは、あのころ以来会ってはいない。まみえることなく過ごした年月を、指を繰りながら数えてみた。二十五年であった。

告別式当日。寒中にしては珍しく暖かい穏やかな日で、優しい陽射しが斎場の白い壁に植木の影を映していた。定刻近く、参列者の黒いかたまりの中に、見知った顔がちらほら見えた頃、奥より読経の声がして黒い列が肅然と動き始めた。形通りの葬儀は進行し、焼香を終えた顔見知りや三々五々何となく集まり始め、出棺までの僅かな時間に周囲を窺いながら挨拶を交わした。「細君の隣にいた人は彼の息子さんか。」異口同音に友人達は尋ねる。「何となく彼に似ているよ。」

かえりみれば彼が突然、脳出血で倒れたのは二十五年前の初冬、出勤前の慌ただしい朝であったという。日頃より健康と仕事には人一倍自信を持っていた彼のことを知っている私には、俄には信じ難い出来事であった。何しろ四十六歳の若さだ。急を聞きつけた友人達と病院へ急ぐ。緊急手術を終えて集中治療室。当然ながら面会はできず部屋の前で立ちつくすばかりだった。かねてから見知っていた母上が、慌ただしく往来する白衣の誰彼かまわず、「お願いします。卒を救ってください。」頭を下げ下げ同じ言葉を繰り返している。悲痛な叫びに似た声が、やがて疲れ果てて泣くようになるまで繰り返している。気の毒で正視できなかった。気を取り直し、細君とは視線を移せば、階段横の電話機に取りすがりどこかに急を知らせているのが見えた。あまり取り乱してはいない様子だが、引きつった蒼白い表情がことの重大さを物語り、とても声をかけられる雰囲気ではなかった。二人の幼い兄妹が異様な空気を察知したのだろうか、大きく目を見開き手をしっかり握り合って母親の背を見つめている。この幼い子のためにもどうか一日も早い全快をと、心から祈らずにはいられなかった。

施すべき治療はすべて終えた。従って退院は出来た。正に九死に一生を得た帰還だった。然し、殆どの人がそうであるように、彼もまた半身不随のハンディーを背負うこととなってしまったのだ。厳しく苦しいリハビリに入る。努めても励んでも、思うように動かぬ手足を見つめて、彼はどんな思いにふけたことであろう。

療養中、一度見舞いに訪れたことがある。何だか疲れ果てた様子で現われ、才智と逞しさが溢れんばかりに漲っていたかつての面影はすっかり影をひそめ、四十代にしてはすっかり老い込んで、「何で俺ばかりが、こんな目に遭わなきゃならぬのだ。」と呟く。見舞いの帰りに細君が近づき、「申分ありませんが、暫くそっとしておいて下さい。同僚の方

がお見えになると羨ましいのでしょうか。お帰りの後で取り乱し荒れますので。」細君の切ない心情を汲みとり、以来直接彼を見舞うことはなかった。やがて彼の環境は変わっていく。休職期間が切れて退職。自宅に閉じ籠もる日が多くなる。経済的な理由から細君は仕事に出ることとなり、伝手を探して就職口をお世話したこともある。その後の彼の消息は何処からともなく吹き込んでくる風の便りで、かすかに窺い知るのが精一杯だった。すでにリハビリは諦めたようだ。減入の気分を払うため杖を便りに外出する。悪い表現だが、この病気の後遺症例のヨイヨイの歩き方だ。町をあちこち彷徨し、人目を避けて自動販売機でお酒を買い求め、公園のベンチで飲んでいる。勿論家族には内緒のことなのだが。

そういう噂を耳にすると、何か私自身が後ろめたい気持ちになり、何もしてやれなかった不甲斐なさがつくづく情けなかった。

告別式も終わりに近づき間もなく出棺である。遺族を代表し挨拶となり、面差しが父親に似た息子さんが、静かに語り始めた。父親が倒れたあの日、母親の陰で大きな目を見開いた幼子が、立派に成長していま私達に語りかける。胸に熱いものが込み上げてきて、思わず両手の拳を握りしめ耳を傾けた。

亡父が脳出血で倒れて以来、看病に明け暮れた母親と、私達兄妹が過ごして来たその長い年月には、父親を真ん中にして家族が楽しく団らんした記憶も思い出もありません。父親と一緒にキャンプへ行ったことも、親子でキャッチボールをしたこともありません。親子連れで遊びに行く友だをどんなに羨ましく思ったこと幾たびもありました。でも私達兄妹は我慢しました。私達が無理を言ったり、我が儘言ったりすると母親が悲しい顔をします。父親はうつむいて黙って不自由な体で、杖をつきながら外に出てしまいます。

いま思えば、父親が一番つらい思いをしていたのかも知れません。やがて私達は大人になりました。両親もほっとしたようです。父親も身体は不自由なままですが、心はおおらかになって来たようで、晩年はことに笑い声が多くなりました。好きなお酒も人目を憚ることなく飲めるようになり、楽しそうな日々が続いたのです。人生の喜怒哀楽を短い間にいっぺんに嘗め尽くしたような父。その父もこのたび肺炎のため亡くなりました。でも皆様御安心下さい。父は死んでやっと自由になりました。もう杖はいらないのです。今日は父の旅立ちの日です。きっと皆様に頭を下げながら喜び勇んで、飛ぶように出て行くことでしょう。だから私達遺族は、棺の中に杖は入れません。父親の思い出として私達がしっかり抱きしめていきます。」

しっかりと口調の息子さんの挨拶を聞き、感動と安心が入り交じり、長い間心につかえていた何かしこりのようなものがこそげ落ちたようです。青い空を見上げ私は心の中で叫びました。

友よ、今こそ天空をめざし自由な身体で羽ばたき翔けのぼれと。



環境コーナー

身の丈 エコライフ

環境を考える会 K.N.

せめてゴミだけは分別して出すように、回収してリサイクルできるものは再生させたい。

ゴミを出さない暮らしのひとつ

- (一) 残り物はラップを使う代わりに保存容器に入れて冷蔵庫にしまう。
- (二) 「洗剤は詰替用にする。」でもちょっと面倒くさい。そうだと容器におしゃれな陶器製ボトルの気に入ったものを探して使えば、自分が気に入ってるものだったら、大事にいつまでも愛用するのではなからうか。

おしゃれに楽しく無理しないエコロジー、ほんの一寸の心掛けで自然に優しい生活が誰にでもできるのではなからうか。



「ゴミを出さない暮らしのヒント」(大和書房)のページ

お知らせ

婚約式

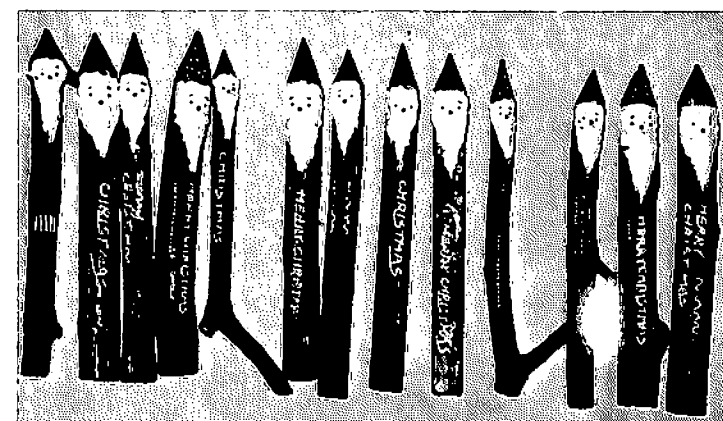
10月3日(日) 於中和田教会
保科 道成
カタリナ 大宮 桂子

洗礼

10月24日(日)
ガブリエル 石井 太一 (たいいち) (彰宏さん三男)
ガブリエラ 石井 霞 (かすみ) (同 長女)
11月27日(土)
ベトロ 松下 真 (まこと) (春樹さん三男)

予定

- ◆大掃除
12月11日(土) am 10時～
- ◆共同告解
12月12日 am 9時ミサ後
- ◆クリスマス深夜ミサ
12月24日 pm 8時
- ◆クリスマスミサ
12月25日 am 10時



鉛筆のサンタさん(畑中紀代子さん(小谷さんお嬢様)作)
ニツキの木の枝を材料にしたスリランカの手作りの鉛筆を、サンタクロースに仕上げたものです。

ミサ 当番表 (99年12、00年1月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
12/5	待降節第一主日	壮年会	大宮
12/12	待降節第一主日	青年会	美底
12/19	待降節第一主日	婦人会C地区	森田
12/24	主の降誕(夜)	壮年会	大宮
12/26	聖家族	壮年会	美底
1/2	主の公現	壮年会	森田
1/9	主の洗礼	青年会	大宮
1/16	年間第二主日	婦人会D地区	美底
1/23	年間第三主日	壮年会	森田
1/30	年間第四主日	婦人会D地区	大宮

※当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏:TEL 802-6258)迄お申し出下さい。